JPA 日本光線力学学会
NEWS LETTER

NO.18 JAN 2018

Contents

・特別寄稿　Laser Week in Tokyo 2018 を開催するにあたって　古川　欣也　2 ページ

・大会後記　第 27 回日本光線力学学会学術講演会　武藤　学　4 ページ

・今後の学術大会開催予定・関連学会開催予定　5 ページ

・新刊書紹介　「PDT 実践ガイドー光線力学的療法の最新エビデンス」　6 ページ

・事務局からのお知らせ　8 ページ

・編集後記　中村　哲也　10 ページ

特別寄稿

Laser Week in Tokyo 2018 を開催するにあたって

日本光線力学学会幹事・日本レーザー医学会理事長
第 39 回日本レーザー医学会総会 会長
古川　欣也
（東京医科大学茨城医療センター 呼吸器外科　教授）

長年の念願であった Laser Week in Tokyo を 2018 年 11 月 1 日（木）、2 日（金）の 2 日間、東京新宿区の京王プラザホテルにて開催することが決まりましたのでご報告させて頂きます。Laser Week とは、第 39 回日本レーザー医学会総会（古川欣也会長）、第 28 回日本光線力学学会学術講演会（村垣善浩会長）、第 14 回日本脳神経外科光線力学学会学術集会（秋元治朗会長）の 3 学会学術集会を同一会場で同時開催することであります。この Laser Week は、現在数多くの学会が存在し日常診療も多忙であり学会参加も限られている若手医師からの切実な声が端緒となり、日本レーザー医学会の将来計画委員会での検討事項となっていました。

日本のレーザー医学関連学会の発展は、渥美和彦先生が 1977 年に立ち上げた医用レーザー研究会を母体として 1979 年に創設された日本レーザー医学会が先駆けとなっています。その後、1986 年に故早田義博先生によって IPA（International Photodynamic Association、国際光線力学学会）が設立され、その日本支部会として 1991 年 JCIPA（Japan Chapter of IPA）が発足し、2001 年からは加藤治文先生が中心となり日本光線力学学会が発足しています。1989 年には、低出力レーザー療法（LLLT）の疼痛緩和などへの応用研究を目的として、大城俊夫先生が中心になり日本レーザー治療学会が発足しました。また、光線力学的診断治療においては脳神経外科領域での有用性が示され、金子貞男先生らが中心となり 2004 年から日本脳神経外科光線力学研究会が発足し、2010 年から日本脳神経外科光線力学学会として活動しています。レーザーを取り扱う美容や皮膚形成分野の学会においてはレーザーに関係した専門医制度を独自に設定している学会もあります。眼科や耳鼻科ではレーザーは日常的に使用されています。このように、レーザー医学は順調な発展を遂げてまいりましたが、それに伴い社会的責務も益々大きくなってきているのが現状で、我々にはこれからも国民に安全で低侵襲かつ有効性の高い医療を開発し提供していく責務があります。その一方で、専門領域のレーザー医療の発展と共に、細分化された多くのレーザー関連学会の設立がなされた結果、全体としての一体感を失いレーザー医療の盛り上がりに欠けている現状があるのかもしれないと考えます。安全で有効なレーザー医療の今後の発展のためには、各学会員の先生方にも、レーザーの基礎と研究、レーザー医療安全や他領域のレーザー診断治療を総合的に学んでいただく必要があると思われます。消化器系の学会では、JDDW（日本消化器関連学会週間）や GI Week が同時開催に成功しています。

以上のような経緯から、光線力学的診断治療法関連の日本光線力学学会、日本脳神経外科光線力学学会は既に 2012 年より継続的に同時開催が行われていますが、2018 年は日本レーザー医学会も加わる事になりました。今回 3 学会の学術集会が同時開催可能になったのは、各大会長が懇意であったことが最も大きな要因であると思います。しかしながら、今後も名実ともにレーザー関連学会が連合して行う体制が整えられるかは、疑問が残ります。各大会長の異なる意向、招聘講演者の選定、共通プログラムの策定、発表機会の減少、運営資金の調達とその割合、開催場所の選定（会長の地元開催でないと寄附が集まらない）、参加費の設定、各学会での会計年度の違いや会計報告など、解決しないといけない多くの課題が残されています。

最後に、2018 年の Laser Week in Tokyo 2018 は、レーザー医学の基礎系、臨床系の様々な専門家が一同に集う学術集会となりますので、相互に関係する共通するテーマに対して、それぞれの専門の立場からよりよいレーザー医療の在り方を議論できる場となるように準備を進めていきたいと存じます。今回は、実験的な試みとしての 3 学会合同開催の Laser Week ではありますが、その結果を見て今後の各学会の方向性を皆様で考えていって頂ければ幸甚です。

LASER WEEK
IN TOKYO
2018年
11月1日(木)・2日(金)
京王プラザホテル
〒160-0023 東京都新宿区西新宿2丁目2-1
TEL: 03-3344-0111
第39回 日本レーザー医学会総会
大会長 古川 欣也 (東京医科大学茨城医療センター 呼吸器外科 教授)
第28回 日本光線力学学会学術講演会
会 長 村垣 善浩 (東京女子医科大学 先端生命医科学研究所 教授)
第14回 日本脳神経外科光線力学学会
会 長 秋元 治朗 (東京医科大学 脳神経外科学分野 教授)
【合同学会運営事務局】 株式会社JTBコミュニケーションデザイン コーポレート営業1局
〒105-8335 東京都港区芝3−23−1 セレスティン芝三井ビルディング13階 TEL: 03-5657-0725 FAX: 03-3452-8534 E-mail: laserweek2018@jtbcom.co.jp

大会後記

第 27 回日本光線力学学会学術講演会

会長　武藤　学
（京都大学大学院医学研究科　腫瘍薬物治療学講座　教授）

去る 2017 年 7 月 14 日（金）・15 日（土）に、第 27 回日本光線力学学会（JPA）学術講演会を京都大学医学部創立百周年記念施設 芝蘭会館にて開催させていただきました。ご協力いただきました先生方、関係各位に心より感謝申し上げます。今回も前回同様、第 13 回日本脳神経外科（JPNS）光線力学学会（会長：金沢大学脳神経外科　中田光俊教授）との合同開催でした。

第 27 回日本光線力学学会学術講演会は、「光線力学の医療における意義」をテーマとして、会期中、招待者 12 名を含む計 184 人の参加者をお迎えし、光線力学に関する基礎医学、臨床医学に関する最新の知見を発表していただきました（計 55 演題）。「特別講演」では日本医療政策機構理事の宮田俊男先生より「医療のイノベーションに必要なこと」というタイトルで、日本の健康・医療分野におけるイノベーション政策の現状と未来について講演していただきました。「教育講演」では大阪市立大学皮膚科の小澤俊幸先生に「感染皮膚潰瘍における PACT」という演題で、熱傷や褥瘡処置などで問題となる皮膚の難治性潰瘍や感染治療における PDT 治療の有用性について講演をいただきました。さらに国際的な学術交流として JPA/JPNS の合同国際シンポジウム（Korea-Japan Joint PDT Symposium）を開催し、PDT 研究で国際的に著名な 3 名の韓国の先生方（Dr. Jong-Ki Kim: Catholic University of Daegu, Dr. Kun Na: Catholic University of Korea, Dr. Chul-Kee Park: Seoul National University College of Medicine）を招聘し、日韓の PDT に関する国際交流を行いました。シンポジウムでは、医工学の融合により達成される「ドラッグデリバリーシステム」、近年の光線力学研究の分野で特に注目されている「感染症分野」、さらに AMED、PMDA、 厚生省など政策的な立場からみた「PDT におけるレギュラトリーサイエンスと保険診療の課題」についてとりあげ、どのセッションでも非常に活発な意見交換が行われました。今回の学術講演会を通じて、光線力学療法は癌の治療をはじめ様々な医療分野において有効性が期待できる治療法であり、今後も基礎と臨床が密に連携して臨床応用を目指した研究を推進していく必要があると再認識いたしました。

2018 年からは日本レーザー医学会総会も加わり、3 学会による Laser Week として秋に開催されると伺っております。本学術講演会が、学会員の皆様にとりまして、ますます有意義なものとなりますよう、祈念いたしております。

平成 29 年 11 月吉日

今後の学会開催予定

・**Laser Week in Tokyo 2018**

第 28 回　日本光線力学学会学術講演会

大　会　長：村垣 善浩

（東京女子医科大学　先端生命医科学研究所　先端工学外科学分野・脳神経センター　教授）

会　　期：2018 年 11 月 1 日（木）・2 日（金）

会　　場：京王プラザホテル　（東京都新宿区）

第 39 回日本レーザー医学会総会

第 14 回日本脳神経外科光線力学学会　の共同開催

・**第 29 回　日本光線力学学会学術講演会**

大　会　長：佐藤 俊一　（防衛医科大学校防衛医学研究センター　教授）

会　　期：2019 年

合 同 開催：第 15 回日本脳神経外科光線力学学会

・**第 30 回　日本光線力学学会学術講演会**

大　会　長：臼田 実男　（日本医科大学呼吸器外科　教授）

会　　期：2020 年

関連学会開催予定

・**The 17th IPA World Congress（第 17 回国際光線力学学会）**

会　　期：2019 年 6 月 28 日～7 月 3 日

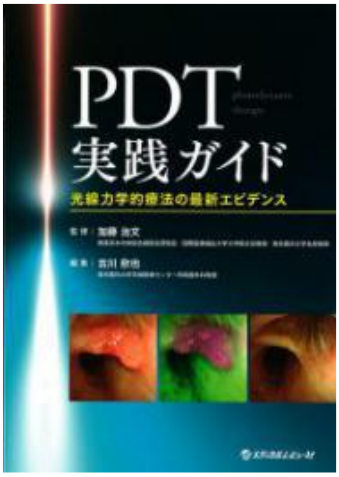
会　　場：米国　ボストン　Harvard University

会　　長：Tayyaba Hasan　（Massachusetts General Hospital / Harvard Medical School）

ホームページ：https://www.ipaboston2019.org/

新刊書紹介

PDT 実践ガイド　－光線力学的療法の最新エビデンス－



定価　4,968 円（本体 4,600 円+税）
版型　B5 版
頁数　182 頁
ISBN　978-4-7792-1940-5
発売日　2017 年 10 月 12 日
監修　加藤 治文
編集　古川 欣也
出版社　メディカルレビュー社
http://www.m-review.co.jp/book/detail/978-4-7792-1940-5

内容紹介

光線力学的療法（Photodynamic Therapy：PDT）が保険採用されて 25 年になろうとしているが、この間の新医療技術の開発によって PDT の適応範囲がやや狭小化したものの、近年本法の治療精度、安全性、低医療費などの面から PDT の優位性が再認識され、薬剤や機器の開発によってさらに清廉化されつつある。まさに国民の望む「治る治療」「安全な医療」「安価で適正な医療」に適合した治療法といえる。1900 年 von Tappeiner によって PDT が芽生え、多くの研究者によって基礎研究が行われてきた。1960 年代には Mayo Clinic の Lipson らによって Hematoporphyrin derivative が作られ、1970 年代になり Roswell Park Memorial Institute の Thomas J. Dougherty によって皮膚転移巣に対する PDT が試みられ、わが国においてもこの頃から肺癌治療への臨床応用が始められた。わが国における積極的な厚生省がん研究助成金による臨床研究によって世界に先駆けて 1994 年、早期癌（肺、食道、胃、子宮頸部）に対するフォトフリン R とエキシマレーザーによる PDT の薬事承認が得られた。現在使用されているレザフィリン R は、1980 年代に日本で開発され、2003 年ダイオードレーザーとの併用で厚労省の薬事承認が得られたのも世界最初であった。この薬剤の有用性を世界が注目し、今や類似薬品が東ヨーロッパで使われるに至っている数少ない日本初の薬剤である。臨床で使用される数ある薬剤のなかでも、レザフィリン®（Chlorin e6, Talaporfin Sodium）は抗腫瘍効果が優れ、代謝が速いために光線過敏症を代表とする副作用がほとんどないことが好んで使われる所以である。

PDT の臨床応用は、早期癌に留まることなく脳腫瘍の治療や難治性食道癌への適応拡大が認められ、癌治療における PDT の臨床的意義はますます高まっている。今後、免疫 PDT を含めた新規薬剤や励起法の開発による新しい治療分野への応用や各種癌治療との併用などでわが国発信の新技術を産出し、世界のリーダーシップを維持したいものである。

今回本書籍の編集にあたり、PDT を施行されるレーザー専門医がエビデンスに基づいた各臓器のガイドラインに沿って豊富な臨床例を重ねることによっていっそう洗練された PDT の確立が実現されることを期待する次第である。

（加藤 治文「序」より抜粋）

目　　次

Chapter 1　総論

1. PDT の原理と現状、今後の課題
2. ガイドラインにおける PDT の位置付け

Ⅰ.早期肺癌を対象とした PDT 施行の安全ガイドライン

Ⅱ.化学放射線療法又は放射線療法後の局所遺残再発食道癌患者に対する光線力学的療法施行の安全ガイドライン

Ⅲ.原発性悪性脳腫瘍患者に対する光線力学的療法施行の安全ガイドライン

Chapter 2　各論

1. 早期肺癌に対する PDT

Case photo1 写真で見る PDT 症例　早期肺癌編

2. 局所遺残再発食道癌に対する PDT

Case photo2 写真でみる PDT 症例　局所遺残再発食道癌編

3. 原発性悪性脳腫瘍に対する PDT

Case photo3 写真でみる PDT 症例　原発性悪性脳腫瘍編

Column

Extra edition　Ⅰ.

化学放射線療法又は放射線療法後の局所遺残再発食道癌患者に対する PDT トレーニング講習会

Extra edition　Ⅱ.

原発性悪性脳腫瘍患者に対する PDT トレーニング講習会

照度マップ作成の例

事務局より

・**平成 29 年度　日本光線力学学会　幹事会報告　（H29 年 7 月 15 日開催）**

・H29 年 7 月現在　　会員数　194 名　（H28・29 年新規入会員数　26 名）

・H28 年度年会費納入者数　延べ　141 名

・H28 年度会計報告（自平成 28 年 4 月 1 日　至平成 29 年 3 月 31 日）

会計：奥仲哲弥 先生　監査：金子貞男 先生、會沢勝夫 先生

(1)　収入の部

前期繰越金	7,615,655	円
会費収入	705,000	円
企業より寄付金	2,000,000	円
預金利息	44	円
収入総計	10,320,699	円

(2)　支出の部

年会費振込用紙発送費・事務経費他	78,828	円
第 27 回 JPA 開催準備金	600,000	円
第 26 回 JPA 大会抄録印刷経費	172,800	円
PDT 講習会開催経費	5,046,407	円
支出総計	5,898,035	円
(1)－(2)= (3)繰越収支差額	4,422,664	円

・幹事の退任、新任などについて

日本大学　泉對　博　先生が本年 3 月末で幹事を退任されました。

また、以下の方が新任幹事として承認されました。

小澤俊幸　先生（大阪市立医科大学皮膚科）

片岡洋望　先生（名古屋市立大学医学部消化器・代謝内科）

磯本　一　先生（鳥取大学医学部機能病態内科学）

・H32 年第 30 回大会会長に、日本医科大学呼吸器外科 臼田実男　教授 が選出されました。

・**来年平成 30 年度**の年会費 5,000 円の払込票を同封いたします。**平成 30 年 12 月 31 日**までにお振込みいただきたくお願い申しあげます。

年会費　：　平成 30 年度　5,000 円

郵便振替　：　00150-9-371545　日本光線力学学会

会計年度　：　4 月 1 日より翌年 3 月 31 日迄

※尚、原則的に 2 年間未納の場合は自動的に退会とさせて頂きますので、御了承下さい。

・**平成 29 年度以前**の年会費を納入されていない会員の方には、未納分会費払込票も同封いたします。早急にお振込みいただきますよう、お願い申し上げます。

日本光線力学学会　役員　（平成 29-30 年）

*50 音順、敬称略

名誉会長	故 早田　義博				
会長	加藤　治文				
副会長	中島　進				
名誉幹事	久住　治男	平野　達	三木　徳彦		
	故 竹村　健	故 平嶋登志夫	故 三村征四郎	故 吉田　知之	
幹事	秋元　治朗	荒井　恒憲	粟津　邦男	池田　徳彦	伊関　洋
	磯本　一	井上　啓史	臼田　実男	浦野　泰照	大崎　智弘
	大崎　能伸	岡崎　茂俊	岡本　芳晴	奥仲　哲弥	小澤　俊幸
	尾花　明	片岡　洋望	金山　尚裕	川島　徳道	小林　正美
	斎藤　明義	阪田　功	坂本　優	佐藤　俊一	鈴木　猛司
	土田　敬明	長崎　幸夫	中津留　誠	中村　哲也	七島　篤志
	楢原　啓之	西脇　由朗	林　潤一	平川　和貴	古川　欣也
	松井　裕史	松村　明	松本　義也	三好　憲雄	武藤　学
	村垣　善浩	室谷　哲弥	森田　明理	矢野　友規	吉田　孝人
監事	會沢　勝夫	金子　貞男			
会計	奥仲　哲弥				

日本光線力学学会　開催歴・予定

敬称略

	開催日時	大 会 長	場 所		開催日時	大 会 長	場 所
第 1 回	1991 年 10 月 6 日	早田　義博 加藤　治文	東　京	第 16 回	2006 年 5 月 13 日	奥仲　哲弥	東　京
第 2 回	1992 年 9 月 5 日	中島　進	旭　川	第 17 回	2007 年 6 月 16-17 日	中村　哲也	栃　木
第 3 回	1993 年 10 月 10 日	奥田　茂	大　阪	第 18 回	2008 年 6 月 14-15 日	松本　義也	名古屋
第 4 回	1994 年 9 月 3 日	竹村　健	札　幌	第 19 回	2009 年 7 月 4 日	荒井　恒憲	横　浜
第 5 回	1995 年 11 月 3 日	平嶋登志夫	東　京	第 20 回	2010 年 6 月 12-13 日	三好　憲雄	福　井
第 6 回	1996 年 11 月 9 日	阪田　功	岡　山	第 21 回	2011 年 7 月 2-3 日	粟津　邦雄	大　阪
第 7 回	1997 年 5 月 24 日	西坂　剛	石　川	第 22 回	2012 年 7 月 6-7 日	松村　明	茨　城
第 8 回	1998 年 6 月 6 日	三木　徳彦	大　阪	第 23 回	2013 年 6 月 9-10 日	大崎　能伸	旭　川
第 9 回	1999 年 5 月 22 日	會沢　勝夫	東　京	第 24 回	2014 年 6 月 28-29 日	西脇　由朗	浜　松
第 10 回	2000 年 5 月 20 日	金子　貞男	岩見沢	第 25 回	2015 年 7 月 10-11 日	古川　欣也	東　京
第 11 回	2001 年 5 月 19 日	吉田　孝人 平野　達	浜　松	第 26 回	2016 年 6 月 25-26 日	坂本　優	横　浜
第 12 回	2002 年 5 月 25 日	林　潤一	東　京	第 27 回	2017 年 7 月 14-15 日	武藤　学	京　都
第 13 回	2003 年 3 月 22 日	室谷　哲弥	東　京	第 28 回	2018 年 11 月 1-2 日	村垣　善浩	東　京
第 14 回	2004 年 5 月 29-30 日	南　三郎	鳥　取	第 29 回	2019 年	佐藤　俊一	
第 15 回	2005 年 6 月 11 日	尾花　明	浜　松	第 30 回	2020 年	臼田　実男	

編集後記

皆様、良いお年をお迎えになり、新たな気持ちでご活躍のことと存じます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

2017 年 7 月 14 日（金）・15 日（土）に京都大学医学部創立百周年記念施設 芝蘭会館において、第 27 回日本光線力学学会学術集会が第 13 回日本脳神経外科光線力学学会（会長：金沢大学脳神経外科教授 中田光俊先生）と合同開催され、大勢の参加者で賑わいました。本学会は『光線力学の医療における意義』をテーマとし、大変参考になる特別講演と教育講演ならびに 3 種類のシンポジウムを設定していただきました。さらに国際的な学術交流として、合同国際シンポジウム（Korea-Japan Joint PDT Symposium）も開催していただき大いに盛りあがりました。時あたかも祇園祭の前祭りが行われている、わくわくした雰囲気の京都で会員懇親会が行われ、すべてが成功裡に終了しました。このような非常に素晴らしい学術集会を企画・開催していただいた京都大学大学院医学研究科腫瘍薬物治療学講座教授の武藤学先生と教室員の方々に、厚く御礼申しあげます。

今回の JPA News Letter は、特別寄稿として、東京医科大学茨城医療センター呼吸器外科教授で日本レーザー医学会理事長、当学会幹事でもある古川欣也先生から「Laser Week in Tokyo 2018 を開催するにあたって」と題する原稿をいただくことができました。レーザーに関連する学会や研究会のこれまでの経緯について紹介していただき、レーザーに関連した複数の学会を初めて同時開催する Laser Week の意義と意気込みについて述べられています。

さて今年の干支は戊戌（つちのえ・いぬ）、今上天皇在位 30 年の節目の年であり、お正月には東の空にスーパームーンをご覧になられた方もいらっしゃったと思います。戊戌は 60 ある干支の 35 番目に当たり、一説には大いなる繁栄の年になるか滅亡の年になるのか、かなり極端な年になることを意味しているそうです。十二支の戌は終焉を表すそうですが、その後には新たな誕生の源となるとも言われています。奇しくも、レーザー関連学会として初めての試みとなる Laser Week が今年の 11 月に東京で開催されます。

Laser Week in Tokyo 2018 が契機となって本学会がさらに発展を続けていくことができるよう、会員の皆様こぞって参加していただきたいと思います。

編集委員長：中村　哲也

（獨協医科大学 医療情報センター）

日本光線力学学会事務局　　〒160-0023　東京都新宿区西新宿 6-7-1

東京医科大学 呼吸器・甲状腺外科学分野内

☎：03-3342-6111（内線 5070）、fax：03-3349-0326

事務局メールアドレス：jpa@tokyo-med.ac.jp